時事新報

東京　明治十七年九月三十日　火曜日　第七百七十六號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○太政官布告第二十五號

明治十三年(一月)第壹號布告藥品取扱規則第二條但書中「舖貸ニテ其」ノ五字ヲ削除ス

右奉　勅旨布告候事

明治十七年九月二十九日　太政大臣　三條實美
内務卿　山縣有朋

賞勲叙任

○明治十七年八月廿日
外務大輔兼議定官從四位勳二等　吉田清成
伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル、グランコルドーテ、デル、オルヂネ、デラ、コロンナ、ヂィタリヤ勳章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許ス

○明治十七年九月廿七日
任靜岡縣令　元老院議官從四位勳三等　關口隆吉
任工部大書記官　靜岡縣令從五位　奈良原繁

時事新報

舟山(チツサン)島

佛國ガ臺灣ヲ占領スルノ念ヲ廢シテ更ニ一層重要ナル場所ヲ略有セントスルノ計畫ハ近來ノ電報ニ據テ分明ニ之ヲ窺フコトヲ得タリ故ニ目下首要ノ疑問ハ清國沿海何ノ場所カ以テ佛國ノ水師ヲ運動スルノ根據ト爲スニ適スルヤトノ一事ニ在ルコト疑ナシ何トナレバ佛國ニテ既ニ支那ト交戰スルノ志アラバ其水師ハ必ズヤ清國沿海ノ地ヲ保有セザル可ラザルコト理ノ當然ナレバナリ然ルニ彼ノ柴棍(サイゴン)ハ其距離頗ル遠キニ過キテ之ヲ實用スルニ適セズ海南(ハイナン)島モ亦同様ニシテ佛國水師ノ根據ト爲スヲ得ザルナリ我輩ノ聞ク所ニ據ルニ佛國首相「フェリー」氏ハ昨年中佛國ハ支那ノ條約各港ヲ封鎖シ或ハ之ヲ砲撃スルコトナカル可シト約言シタリト然ルニ過日佛艦ガ福州ノ砲撃ヲ行ヒタルハ或ハ其言ヲ食ミタルガ如クナレドモ八月二十三日佛清兩艦隊ノ水戰シタル彼ノ羅星塔碇泊所ハ所謂條約港ト稱ス可キ場所ニ非ザレバ右ノ砲撃ハ決シテ破約ノ擧ニ非ズ羅星塔碇泊所ニシテ果シテ斯ク福州港ノ貿易ト相關係スルノ地ニ非ザル以上ハ英國トテモ亦異議ヲ挿ムコト能ハザル可シ佛軍ハ閩江前後ノ戰爭ニ於テ先ツ清艦ヲ撃チ沈メ金牌(キンパイ)閩安ノ砲臺ヲ毀チ又支那帝國ノ兵本ヲ驅逐シタルニモ拘ハラス未タ地形最勝ノ據處ヲ得ズト雖モ當局ニ其計畫ヲ成就セントスルニハ清國沿海ノ場所ニ於テ一土壌ヲ保有スルコト最必要ノ事ナラン

サテ又近日佛國ガ舟山(チツサン)島ヲ占領シテ之ヲ略有セントスルノ計畫ニ就テハ昨今我輩ノ手ニ接シタル海外ヨリノ來信中ニ屢々助言スル所アリ抑モ舟山島ト云ヘルハ寧波(ニンポ)ノ東五十英里、鄞河ノ對面ニ横ハル群島中ノ最大ナルモノニシテ其長サ二十英里幅員十六英里ニ下ラス且ツ其地勢本陸ニ接シ最モ揚子江口ニ近キヲ以テ之レヲ臺灣ニ比較スレバ一層緊要ナル場所ニシテ其利害ノ關係スル所モ亦一層重大ナル[illegible]

[illegible]

國ノミニアラズ殊ニ英國ノ如キハ既ニ先權先約ノ權理アル者トス其來歴ハ左ニ揭クル所ノ如シ

英國東印度會社ハ千六百年代ノ末ニ製造所ヲ舟山島ニ搆ヘタレドモ千七百三年ニ至テ同島ノ貿易ハ廢絶ニ歸シ爾後百二十五年間ハ或ハ巡邏視察ノ爲メ或ハ永期航海ノ爲メ時ニ支那海ヲ周航セシ二三艘ノ外國船ガ之ヲ巡視スルニ過ギザリキ其後千八百三十九年英清敵意ヲ生シタルヲ以テ英兵舟山ヲ攻撃シテ遂ニ之ヲ略有シタレドモ未タ幾ナラズシテ退去シタリ然ルニ同四十一年ニ英國水師提督「パアカア」氏ハ更ニ遠征軍ヲ率テ香港(ホンコン)ヨリ北上シ、廣ノ八月二十七日ニ廈門(アモイ)ヲ略シ十月一日進ンデ舟山ヲ占領シ勝ニ乘シテ其首府定海(チンハイ)ヲ侵撃シタルニ支那人支ヘズ其刼略スル所ト爲レリ既ニシテ英兵ハ再ビ同島ヲ引キ上ケタレバ支那政府ニテハ向後同島ノ外侵ニ備フル爲メ三將軍ヲシテ兵一萬ヲ率テ舟山ニ赴カシメ同島内ニ於テモ亦兵勇ヲ募集シタレドモ英兵又來テ攻撃占領スルコト初ノ如ク爾後數箇月間ハ同島ニ駐營シタリ其後千八百四十二年八月「サー、ヘンリー、ポツチンガア」ガ支那政府ト南京ニテ取結ビタル有名ノ條約第十條ニハ英兵ハ支那政府ガ條約通リ償金ヲ拂ヒ且ツ港場ヲ開クマデハ「クランシユ」(廈門)及ビ舟山ヲ保有ス可シ云々トアリシガ爾後四年ニシテ英兵ハ同島ヲ引キ上ケタリ此時ニ當テ英國ノ香港太守「サー、ジヨン、ダヴヰス」ハ右ニ就キ清國欽差大臣ト商議シ英國ハ他國ノ侵撃ニ對シテ舟山ヲ保護ス可シト約シタリ右商議中最要ノ文案ハ左ノ如シ

第三條英國皇帝陛下ノ兵舟山ヲ引キ上クルノ後清國皇帝陛下ニ於テハ其他ノ外國ニ向テ決シテ舟山ヲ讓與ス可ラザルコトヲ約ス

第四條英國皇帝陛下ニ於テハ他國ノ侵撃ニ對シテ舟山及ビ其屬島ヲ保護シ舊ノ如ク之ヲ清國ノ所有ニ復スルコトヲ約ス

以上ノ所記ニ附ケ加ヘテ尚ホ爰ニ記ス可キノ要件ハ千八百六十年ニ暫時ナガラモ英兵ガ又々舟山ヲ占領シタルノ一事ナリ抑モ千八百四十六年英清商議ノ諸箇條ヲ案スルニ當時ノ「サー、ジヨン、ダヴヰス」ハ舟山ヲ以テ第二ノ香港ト爲スノ意ナリシガ如クナレドモ兎ニ角其計畫ヲ實行スルニハ至ラザリシ故ニ英國ニテハ毫モ右商議ノ箇條ヲ顧ミズト決心スルニアラザル以上ハ今日ニテモ尚舟山ヲ保護シ同島ヲシテ他國ノ手ニ落サシメザルノ責アルコト疑ヲ容レズ左レバ本年春ノ頃佛國ハ舟山ヲ占領ス可シトノ問題起リタル折、香港商法會議所ニテハ英國ハ千八百四十六年英清商議ノ箇條ヲ嚴行ス可シトノ次第ヲ論シテ之ヲ英國外務省ニ上申シタルガ英政府ハ此上申アリタルガ爲メ右ニ由シテ果シテ幾分ノ手[illegible]

[illegible]

可キノ責任アリ左レバ今度佛國ニテ若シ舟山ヲ占領スルノ計畫ヲ爲サントセバ或ハ英國ノ意ニ逆フテ更ニ敵對ノ方向ヲ取ルカ或ハ同島ノ關係ニ就キテ更ニ英國ト約束スルカ二者其一ニ居ラザル可ラズ然リト雖ドモ英政府ハ千八百四十六年ヨリ生シタル舟山保護ノ責任ニ就キ曾テ再思シタルコトナク殆ンド之ヲ忘却シ居ルハ亦疑ナキガ如シ之ニ反シテ清國ニテハ英國ヲシテ「サー、ジヨン、ダヴヰス」トノ商議ヲ回憶セシムルヲ以テ甚ダ便宜ナリト爲スコトナル可シ

○正誤　昨日ノ社説ニ支那ノ貿易總額ヲ一箇年一億圓トシタルハ間違ナリ一昨年支那各港ノ輸出入總額ハ一億四千五百萬兩(テール)此日本銀凡二億圓ナリ故ニ論中支那ノ貿易ハ日本ニ二倍云々ハ三倍云々ト讀玉フベシ

佛清事件

○白河夜間通航の禁止　過日天津よて佛軍北上の風聞ありたる由は上海發れ電報れ儘既に我紙上よ揭けたりしが夫等の爲めにや清廷にては一層太沽(タク)口の守りを嚴よし佛艦不時の侵來に備ふるもの丶如し右に就き九月廿八日天津發よて横濱メイル新聞に達したる電報は左れ如し

支那政府ニテハ追テ訓令スル迄ハ日暮後白河口ノ通航ヲ許ス可ラズト命シタリ又各國公使ヘ向ケ廻文ヲ送リ白河ニ入航スル諸船舶ニ各其國旗ヲ飜ス可シト助言センコトヲ要求セリ

右電報の趣にてれ清廷は佛艦の何時白河口よ闖入せるやも測られさるを恐れ夜間は特に不用心なり晝間よても佛艦の他國船に交りて入來するとなしと云ふ可らず或は他國船よても其國旗を揭けざれバ之を佛艦と見違ふの恐ありとて白河夜間れ通航を禁し且れ各國の船舶をして其國旗を揭けしめんとするれ計畫なるが如し然るに又說を爲すものは支那政府にて斯くまで取越苦勞をするは別に其政略の在るが故なり何を以て之を言ふとあれば白河の入口は極めて堅固なるものにしく現今の砲臺れ千八百五十八九年頃に比それば凡そ十倍の堅牢を加へたり又佛艦が夜に乘して突然に白河筋に乘込む杯とは思ひも寄らず特に支那と米國との條約よは支那政府と其他の或る國と戰爭する場合に於ても其條約各港に於ける米國の通商を妨くることなかるへしとの箇條もあり尤も護國の急よ迫れる斯かる箇條を遵行する能はさる可しと雖ども今日支那の擧動れ未ざ其急よ迫らざるよ故に中立國とれ通商を妨くるが如き痕跡あり呉淞上海の如き佛國れ之を中立れ地と見做すと明言しさるよも拘はらず支那政府にては之を填塞せんとしたる等皆是れ清廷が故に中立國とれ通商を妨け中立國をして其通商上の損害に堪えす自然仲裁を申出さゝるを得ざらしむるの政略ならん云々と右は一理ある臆測說あれとも清廷の政略果して斯く錯雜婉曲なるや否我々は之を疑ふ由なし唯各國の商船をして各其國旗を檣上よ揭けしむるの[illegible]基も同所各國領事よ向て既に之を諭たれ[illegible]

[illegible]